

2020 年 8 月 17 日 担当者: 小松

高稼働も損益悪化続く

中国新增設が懸念材料

国内石化

国内の石油化学設備の高稼働が続いている。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、主要顧客の一つである自動車産業の生産が大きく落ち込んだ3、5月の間も、ナフサクラッカーの平均稼働率は9割前後を維持し、今後も自動車産業が回復すれば、稼働率はさらに高まるシナリオも否定できない。しかし高稼働を保った背景には、複数の設備が定修に入り供給が絞られた要因もある。自動車回復し稼働率が上がっても、供給が戻るため縮小したマージンは回復が遅れる可能性がある。最大の懸念は、中国で相次ぎ建設された大型の石化設備がいつ動くか。アジアの石化需給・市況は数年厳しい状況が続くと指摘する関係者もいる。

自動車生産反転も
石化の心臓部であるナフサクラッカーの国内平均稼働率は3月、好不況の目安となる90%を6年4カ月ぶりに割り込み、88.7%だった。4月は

均稼働率は3月、好不況の目安となる90%を6年4カ月ぶりに割り込み、88.7%だった。4月は

90%以上へ戻ったが、5月は89.4%と再び90%を下回った。当初は経済活動自粛により、稼働率は

動が再開した6月は92.2%と上向き、石油化学工業協会の和賀昌之会長は「需要がプラスに動き

始め、今後も比較的高い稼働が続くのではないかと話す。実際、低迷していた自動車の生産が底を打って反転し始めており、堅調な包装材関連や半導体関連と合わせ、需要回復の兆しは見えてくる。



ナフサクラッカーの国内平均稼働率は92.2%に回復したが...

は7~8割まで落ち込むのではとの見方もあったが、今年後半は定修年に当たり、結果として9割前後を維持した格好だ。経済活

問題は市況だ。原油価格は新型コロナウイルスの影響を受け、3~4月には一時10割台を記録した。こうした結果、4~6月の国内ナフサ基準価格は1ギガ当たり2万5000円と、1~3月から半値に近い金額まで下落。原油・ナフサ価格の下落に連動し、石化製品市況も下落を余儀なくされ、下落局面ではマージンは縮小

収益面でシレンマ

石化製品の需要は、自動車の低迷はあるものの、食品容器、半導体、ディスプレイなどエレクトロニクスの広がりにもなる堅調な需要を支えられているほか、マスクやフェイスガード、医療用ガウン、飛沫防止用の間仕切り板などコロナ特需もある。しかし、利益を確保できないシレンマに陥っている。

では自動車が回復し、原油・ナフサ価格の上昇に連動して、マージン改善が順調に進むかという点と懐疑的な見方が支配的だ。石化市況は3~4月の底値からは脱し、ある程度はマージン改善は進むものの、この間の大幅

な損失を取り戻せるほどの勢いにはいたらない可能性が高い。コロナ第2波の懸念がくすぶり、原油・ナフサ価格も上値が重なり展開が予想されることなどが背景にある。

600万トンの追加計画
さらに懸念されるのが中国の動き。石油精製と一体となった大型石化設備が相次ぎ建設され、昨



ウメモト インフォメーション



2020 年 8 月 17 日 担当者: 水谷

日本経済新聞

記事利用について

コスモHD、最終赤字260億円 4～6月期、在庫評価損響く

2020/8/14 18:13 | 日本経済新聞 電子版

コスモエネルギーホールディングスが14日発表した2020年4～6月期の連結決算は、最終損益が260億円の赤字（前年同期は147億円の黒字）だった。新型コロナウイルスの影響で原油価格が下落し、石油製品の在庫評価損を計上した。石油化学製品の採算も悪化した。

売上高は前年同期比33%減の4400億円、経常損益は283億円の赤字（前年同期は208億円の黒字）だった。在庫評価損を経常損益ベースで約340億円計上した。外出自粛によりガソリンやジェット燃料の販売量が前年同期を大きく下回った。パラキシレンなどの石油化学製品も、需給が悪化し利幅が縮小した。

この日出そろった石油元売り3社の20年4～6月期決算は、資源安を背景に全社が最終赤字に転じた。

	売上高	最終損益
ENEOS	15461(▲39)	▲48(赤字転落)
	7340(▲27)	400(黒字化)
出光興産	9828(▲34)	▲813(赤字転落)
	39000(▲35)	50(黒字化)
コスモHD	4400(▲33)	▲260(赤字転落)
	20400(▲25)	145(黒字化)

(注) 単位億円。カッコ内は前年同期比増減率%。▲は減少・赤字。上段は2020年4～6月期実績、下段は21年3月期見直し

引用記事 : 日本経済新聞 ・ 燃料油脂新聞 ・ 化学工業日報



ウメモト インフォメーション



2020 年 6 月 17 日

担当者: 小松

純損失 813 億円に

出光興産

出光興産の2020年4～6月期決算は、813億円の純損失(前年同期は359億円の純利益)を計上した。コロナ禍とともに生じた原油価格の下落や燃料油販売量の減少、基礎化学品のマージン悪化といった要因が業績を直撃した。また、香港での送金詐欺により38億円の損害が発生した。

売上高は98828億円(前年同期比33.4%減)、営業損失707億円(前年同期は339億円の利益)、経常損失994億円(同346億円の利益)だった。同社が業績

指標として重視する営業利益と持分法投資損益の合計額は975億円の損失(同327億円の利益)だった。

今回の決算で、同社の100%子会社の出光ケミカルズ香港が送金詐欺にあり、38億円の特別損失を今期計上した。同子会社は、中国などアジア地域に向けてポリカーボネートやシンジオタクチックポリスチレン(SPS)のコンパウンドを販売しているという。

セグメント利益をみると、燃料油セグメントで生じた944億円の在庫損失が全体の業績を押し下げた。在庫損失を除いても燃料油セグメントは94億円の損失で、外出自



ウメモト インフォメーション



2020 年 8 月 17 日 担当者: 植野

DICの今期、純利益36%減に下方修正 出荷数量減少で

ビジネス

2020/8/11 13:04 | 484文字

保存 共有 印刷 共有 ツイット その他

DICは11日、2020年12月期の（今期）の連結純利益が前期比36%減の150億円になりそうだと発表した。従来予想（同横ばいの235億円）から85億円下方修正した。新型コロナウイルスの感染拡大で世界経済が停滞した影響で出版用インキ、化粧品用顔料、自動車向け材料など幅広い分野で出荷数量が減少している。需要回復に時間がかかるとみて通期業績予想を引き下げた。

売上高は9%減の7000億円と従来予想（5%増の8100億円）から1100億円、営業利益は15%減の350億円と従来予想（9%増の450億円）から100億円、それぞれ引き下げた。増収、営業増益から一転して減収減益となる見込み。中間配当は前年同期比10円減の50円（従来予想は55円）に、年間配当予想は前期と同じ100円（同110円）に引き下げた。

同日発表した20年1～6月期の連結決算は、純利益が前年同期比21%減の103億円だった。インキや顔料の出荷減少に加え、化学世界最大手である独BASFの顔料事業買収に伴う一時費用が重荷になった。売上高は11%減の3437億円だった。

8/11の記事

引用記事 : 日本経済新聞 ・ 燃料油脂新聞 ・ 化学工業日報

2020 年 8 月 17 日

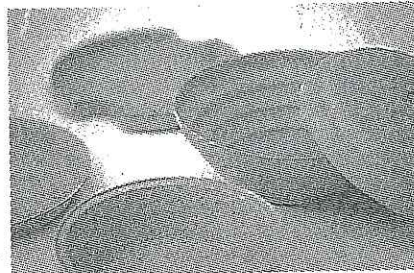
担当者: 小沢

食品廃材から食器

丸紅が
実証開始
使用後は飼料・肥料に

丸紅は食品廃材を原料にした食器を使用後に飼料や肥料に再利用する実証実験を開始すると発表しました。環境負荷の少ない「循環型食器」として事業化を目指す。第一弾として小麦フラン（小麦の皮）を原料とした食器3種類を製品化し、事業化を検討する。

循環型食器のブランド名は「エティッシュ」。これまでほとんど用途がなかった食物の皮や芯などの食品廃材を、独自技術で食器に成形して飲食店向けに提供する。使用後



は回収して飼料や肥料に加工、畜産・肥料事業者に供給する。飲食店で利用者が料理を食べ終わった後、容器を「回収BOX」に入れてもらうことで、環境意識の向上にもつなげていきたい考え。

第一弾の実証実験は、国内外で70店舗超の飲食事業を展開するセットン公園のカフェやバーベキ

は回収して飼料や肥料に加工、畜産・肥料事業者に供給する。飲食店で利用者が料理を食べ終わ

た後、容器を「回収BOX」に入れてもらうことで、環境意識の向上にもつなげていきたい考え。

第一弾の実証実験は、国内外で70店舗超の飲食事業を展開するセットン公園のカフェやバーベキ

は回収して飼料や肥料に加工、畜産・肥料事業者に供給する。飲食店で利用者が料理を食べ終わった後、容器を「回収BOX」に入れてもらうことで、環境意識の向上にもつなげていきたい考え。

第一弾の実証実験は、国内外で70店舗超の飲食事業を展開するセットン公園のカフェやバーベキ